



皆様こんにちは！

残暑という言葉は、今やもう無くなってしまったのでは・・・と思うくらい、8月の終わりにかけてもまだ暑い！  
毎日最高気温は30°を超す暑さ！昔はこんなに暑かったかなあ～と何回も思う今年の夏です！

お元気でいらっしゃいますでしょうか？

ただ私、寒いのが苦手なので、むしろ暑い方が実は好きでして、普段はあまり汗はかかないのですがさすがにこの夏は相当汗をかいておりますが、最終的にはそんなに嫌いじゃないんです・・・。  
なんか、「ああ、俺今、生きてるっ。」といった感じで、生を感じてしまうのです。と思ってるだけで、もしかしたらこの暑さに生を削られているかもしれないですね。怖いですねえ、恐ろしいですねえ。



といった形で淀川先生が何故か出てきたところで、  
今号の私の特集は **F I B A バスケットボールワールドカップ** です!!  
実は以前にラグビーワールドカップの特集を書きました。それは自分がやっていたスポーツだったからですが、このバスケットボールも私、実は小中学校でやっておりました！そんなことで今真っ最中でありますバスケットボールのワールドカップをお伝え致します！

**FIBA (国際バスケットボール連盟) バスケットボールワールドカップ** (FIBA Basketball World Cup) は、4年に一度開催されるバスケットボール世界一決定戦。

1950年に第1回大会が開催され、2010年大会までは「**世界選手権**」(FIBA World Championship)の名称で行われておりました。2014年大会から名称新たに「**ワールドカップ**」となって現在に至ります。

なのでバスケットボールのワールドカップって、あまり聞き馴染みが無く、**名称変更して今回が3回目**ということになります。ただその前身のバスケットボール世界選手権のスタートは1950年。ですから歴史ある大会なのです。世界選手権時代も含め、過去18回も開催されている世界大会なのです。

それではこの18回の大会で **1番多く優勝している国**はどこでしょうか？

はい、そうです、多くの方が思った通り**アメリカ**なのです。

が、しかし、同数の優勝国も実はあるのです。

それは**旧ユーゴスラビア**です。**同数の5回の優勝**。

更には準優勝の数も3回と両国とも同数。

NBA(アメリカプロバスケットボール)があるアメリカが圧倒的に強いのでは？

と思う人も多いですから断トツではないこの結果、意外ではないでしょうか。



**アメリカが圧倒的ではない理由は、先に挙げたNBAの存在です。**

1989年までFIBAの国際的な大会にはプロ選手の参加が認められていませんでした。そのため当然にアメリカの超一流、一流のプレイヤーは皆プロのNBAに所属していますので、それらの選手が圧倒的に多いアメリカはトップクラスの選手が出場できない、といった背景が大きな理由だったのです。



その後、プロ選手も参加が認められるようになり、NBA選手が初めて登場したのは1994年の第12回大会でした。この大会では、シャキール・オニールを中心とした「ドリームチーム」を結成したアメリカが優勝しました。

ただ、NBAではワールドカップよりオリンピックの方が優先度が高い、といった考え方が浸透していること、そして高額な年俵がもらえるNBAを優先し、一流選手が出場しない傾向がまだあり、アメリカは先の1994年大会以降も圧倒的な結果を残せていない現状があるのです。

**大会の歴史を見てみましたが、我々が日本チームはどうでしょうか？**

日本は過去5回の出場で、**最高順位は1967年大会の11位**。今大会は**2大会連続の6回目**の出場です。19回目を迎える今回の2023年大会は、フィリピンのマニラ、インドネシアのジャカルタ、そして日本の沖縄県で行われる初の共催大会。日本とフィリピンは2回目、インドネシアでは初開催。前回の中国に続いてのアジア開催であり、アジアの成長と発展が注目される大会であります。



ですから今大会は日本チームの活躍に乞うご期待です！

速報では世界ランキング36位の**日本が同24位のフィンランドを破りました！**  
激しい戦いだとは思いますがナイスプレーを見せてくれ！頑張れ！アカツキジャパン！



## 今月のテーマ

- I 甲子園 慶応107年ぶり優勝  
仙台育英 連覇ならず
- II エーザイ 認知症新薬  
“レカネマブ”承認へ
- III 18歳と81歳の違い
- IV 秀人のつぶやき

想いをのせて **感謝** ありがとう

今年の夏は全国的に連日猛暑が続いている。  
日本列島の地図は**南から北まで真っ赤に染まっている**。  
9月もこの暑さは続く予報だ。

**体温超え**の危険な暑さはまだまだ続く。

気象庁は引き続き熱中症に警戒してと発表した。

**一方、世界はどうか？**

水不足により、物流、食料に波及が出ている。  
気候変動による水不足が世界のビジネスの足かせになっている。運河や河川の水位が下がり、輸送の遅れや物流コストの上昇につながっている。  
干ばつで穀物の不作が相次ぎ、オリーブ油は最高値だ。世界の慢性的な水不足は今後も続き、経済活動への影響が一段と広がるとの指摘が出ている。

**日本ではどうか？**

「**くず米になっちゃう...**」日本の米どころ新潟が大ピンチ。  
原因は“水不足と暑さ”。枝豆、ひまわり、ニシキゴイも被害にあっている。田園は干上がり、ひび割れを起こしている場所もあり、実も入っていない。ほとんどが...モミだけ...。  
この状況はすでに1ヶ月続いている。

一方、地域によっては、**線状降水帯による被害**に苦しむ人もいる。

大雨に関する研究の権威である気象研究所調査の報告でも**線状降水帯は昔と比べると発生回数は増えている**。

**原因はなんだろう？原因は地球温暖化なのか？**

地球温暖化を要因とした気温上昇によって、**空気中に含まれる水蒸気が全国的に増加し、線状降水帯が増加している**。



線状降水帯による大雨の発生回数は1970年代から現在まで毎年増加している。

近年の線状降水帯が発生した豪雨の事例でも、温暖化の影響により、平成29年7月の九州西部の発生頻度は1.5倍、平成30年7月の瀬戸内地域は3.3倍になっていた。特に、線状降水帯が停滞してしまうと、その時点で集中豪雨を引き起こし、大きな水害をもたらす可能性がある。  
**天気予報で「線状降水帯」の言葉を耳にした時は、十分な備えをすることが求められる**。



**新しい働き方 人手不足解消に一役**

高齢化が進む中「生涯現役」に向けて働くシニア世代が増えている。

65歳以上で仕事をしている人の割合は増加が続いている。九州、沖縄、福井、山梨、長野は急伸している。  
人手不足が深刻な地域で自治体や企業も高齢者が働きやすい環境を整えようと懸命だ。

沖縄県のある建設会社は65歳定年を70歳に引き上げた。70歳のO.Mさんは50年前に入社し、幅広い業務を経験してきた。現在も会社の中心的な仕事を担当し「若い人からも斬新な発想に学ぶ点も少なくない。自身の成長にもつながる」と語り、生きがいがあるとも言う。

『年を取っているから』といった偏見から、高齢人材を生かし切れていないと、ニッセイ基礎研究所の前田上席研究員は話す。その上で『年齢に関係なく、能力に応じて仕事や収入が得られる仕組みも重要になる』とみている。

これからの日本にとって発想の転換が求められる。



送料を 無料にするため ムダ使い



信頼と実績で皆様に愛されて36年！  
生命保険・不動産の売却・買い取り すべてお任せください！



株式会社 **ASADA**  
オフィス

代表取締役 **麻田 春江**

住所：〒302-0015 茨城県取手市井野台1-7-28 E-mail: officeasada220@gmail.com  
TEL: 0297-72-2401 FAX: 0297-72-6217 URL: https://officeasada.com



# I 甲子園 慶応107年ぶり優勝 仙台育英連覇ならず



## 高校野球の新たな可能性 慶応監督

慶応の前回優勝は1916年、大正5年のこと。長い長い空白を埋めて、慶応が深紅の優勝旗を手にした。

昨年夏の覇者仙台育英に、春のセンバツでタイブレークの末慶応は敗れた、その強敵校だ。森林監督は「勝つには実力プラスアルファを引き出す応援、球場全体の雰囲気とか、そういう力を借りないと難しい」と見ていた。

その点で1番丸田の先頭打者ホームランは効果満点だった。仙台育英の先発エース湯田の低めのスライダーは打てない。チームの狙いはカウントを取りに来る高めだった。丸田は2球で追い込まれたが、続く直球は2つ続けて高めに抜けた。最後は狙っていた高めのスライダーを振り抜いた。決勝の先頭打者の本塁打はなんと！史上初。これで応援歌に手拍子加わり、スタンド全体を味方に付けた慶応。継役も狙い通りだった。



森林監督が掲げる“エンジョイ・ベースボール”とは『本当の楽しさエンジョイは一生懸命やって、その困難を乗り越えた先にあるという考え方』  
今回の甲子園では、物凄くこれが出来ている。  
日本一の実感がわかないと言いながら「やりたかった野球がここでやっと形にできた」と選手をたたえる森林監督の顔には達成感が感じられた。

## 雰囲気を持っていかれた 仙台育英監督



「メンバーが変われば新しいチーム」との思いから須江監督が掲げた『仙台育英の2度目の初優勝』はあと一歩で阻まれた。  
決勝の先頭打者本塁打は史上初。これで球場が慶応の空気になった。単純に相手が強かったと慶応チームの健闘をたたえた。

昨夏の優勝メンバーが多く残ったチームは家族構成が弟ばかりで「弟ズ」と名付けられた。「誰かの後について何かをする子ばかり」と須江監督。自主性や積極性が欠けるチームだったが、選手間のミーティングで意見をぶつけ合って切磋琢磨してきた。

監督は「2年連続の決勝は奇跡。よく成長した」と確かな強さを印象づけて甲子園を後にした。



## 全国高校野球選手権記念大会 準決勝 茨城・土浦日大・神奈川・慶応 土浦日大応援団長



三塁側アルプス席には、土浦日大を応援する約1千人が集まった。先頭に立って声を張り上げたのは、土浦日大の生徒会長の橋場まりあさん(2年)。女子部員のみ13人の応援部で部長兼団長を務める。昨夏の茨城大会で応援部の姿を見て、「私がやる」と応援団へ入部した。約1カ月間の応援練習で「声だけでなく、表情も見せたい」と決意して甲子園入りした。

決勝に進出した仙台育英の応援団と宿舍が同じで交流も生まれ、橋場さんのシャツのそでは仙台育英の生徒会長大久保ゆりさんから贈られた「決勝で会いましょう」という直筆のメッセージが書かれていた。準決勝は敗れたが、試合後、橋場さんはアルプス席にあいさつに来た選手たちに「よくやった」と声をかけ、号泣した。仙台育英との交流も含めて、「貴重な経験をさせてくれた野球部に感謝しています」と話した。

## 慶応の今大会は“常識を覆す野球”だった それは？

### ① 脱“丸刈り”

今大会ベスト8の中で“非丸刈り”は慶応・花巻東・土浦日大の3校。慶応は70年前からの伝統で“脱丸刈り”だった。高校野球＝丸刈りという常識を一旦考えようということでも丸刈りでなくても良いのではとなった。丸刈りが嫌で野球を選ばない中学生もいる。若者の野球離れが進む中で、慶応は一貫してきたメッセージだった。野球技術と髪のは長さは関係ないと。

### ② 全体練習が短い

全体練習の時間は短く、後は自主練習。やるべきことを分析、逆算して短時間でやる。自分のことをよく知って、マネジメントをする。いかに心を鍛えて、ピンチに平常心で乗り切るか。人間学の勉強を一生懸命にやっていることが印象的だった。



### ③ 上下の垣根を取り払う

上級生と下級生の関係性では、下級生は上級生を君づけで呼んで、和気あいあいと垣根をなくやっている。それも校風。森林監督の名前を使った応援「森林が足りない!」は生徒が自発的に始めたこと。それを森林監督が喜んで見ている。生徒同士だけでなく監督とも垣根がない、と快進撃の秘訣を分析した。

(スポーツ報知 加藤編集委員が日テレに生出演し解説した)

## III 18歳と81歳の違い

恋に溺れるのが18才、お風呂で溺れるのが81才。  
道路を爆走するのが18才、逆走するのが81才。  
心がもういのが18才、骨がもういのが81才。  
ドキドキが止まらないのが18才、動悸が止まらないのが81才。  
恋で胸を詰まらせる18才、餅で喉を詰まらせる81才。  
偏差値が気になる18才、血圧・血糖値が気になる81才。  
まだ何も知らない18才、もう何も覚えていない81才。  
自分探しをしている18才、皆が自分を探している81才。



## II エーザイの認知症新薬 “レカネマブ” 承認へ

日本でも8月21日に米国に続いて厚労相が承認した。レカネマブは病気の根治につながる薬ではない。投与の対象は、日常生活に支障がない「早期段階」の比較的症状の軽い患者に限られる。

アルツハイマー病は脳に「アミロイドベータ」というたんぱく質がたまり、正常な神経細胞が壊れて脳に萎縮がおこる。レカネマブはこの「アミロイドベータ」を除去することで病気の進行を遅らせる。臨床試験(治験)では、病気の進行速度を27%緩やかにする効果が確認された。

健康保険などの公的医療保険の適用対象となる。実際に日本の医療現場で使えるようになるのは早くても10月、遅くとも11月になる見通しだ。

長寿化に伴い、アルツハイマー病の患者数は世界で急増している。国内の認知症患者数は2025年には推定約730万人になる。

国内では認知症患者のうちアルツハイマー病患者が最も多く、全体の6割以上を占める。アルツハイマー病の主な症状は、記憶喪失や、適切な言葉が見つからない人の話を理解できないといったものだ。

先の国会で認知症基本法が成立した。認知症は患者や家族に物心両面で重い負担がかかる。日本はこれまで認知症に対し医療ではなく介護で対応してきた。国内の認知症専門医は3000人で偏在しているが、専門医不足はかねてから指摘されている。

## 稲盛和夫一日一言より

利他の思いを常に抱き、感謝しながら生きている人は必ず宇宙の“ラッキー”を受けられる。  
一方、自分だけ良ければいいという利己のかたまりのような悪しき心を持っている人は、やることなすこと、思うとおりには進んでいかない。